いずかし

「自主、自立、自信」子供のやればできるの体験を支える学校づくり

R８年1月14日
文責：校長

3学期始業式

新たな気持ちでスタート

新しい年を、ご家族やご親戚の方々と清々しく迎えられた事と思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

８日（木）に３学期始業式を行いました。子供たちは14日間の休みを有意義に過ごしたようで、３学期の学校生活に希望を持って、目を輝かせながら話を聞いてくれました。私からは、「丙午（ひのえうま）は『丙』と『午』は火を現すことばの重なりで、60年に一度巡ってくる縁起のいい年です。目標をきめて新しいことにチャレンジして大きく成長しましょう。」と話をした後、次の２つのことを話しました。

①何でもいいから一年間の目標を決めて、やり通す

例えば、友達にやさしく接するとか、勉強はわからないところをそのままにしないなどなど、何でもいいから必ず目標を決めて、実行していきましょう。目標を持つのと持たないのでは、一年経つと大きな差が出ます。

②学年のまとめをしっかり頑張りましょう

これまで頑張ってきたことをもっと伸ばしたり、苦手なところをなくす努力をして次の学年に上がる準備をしましょう。

この二つを話しました。子供たちはとても真剣に話を聞いていました。３学期はやり残すことがないように、それぞれがしっかりと頑張ってほしいと思います。

３学期始業式の様子

どんどや

一月十一日（日）に「どんどや」が行われました。

前日の早朝からＰＴＡ役員さんをはじめ、どんどや委員の皆様方に小雨が降る中でしたが、会場となる場所を整地していただき、その後地域の方が櫓を組まれました。

当日は気温が下がり、時折小雪が舞う中でしたが、保護者や地域の方々が持ち寄った正月飾り等を持ち込まれ、午前９時にどんどやの火柱が上がりました。

ご存じの通り、どんどやは無病息災や五穀豊穣を祈願し、残り火でお餅を焼いて食べると一年間健康に過ごせるという習わしがあります。また、神様を煙と共に送り出し、厄を払い、新年の健康と豊作を祈る伝統行事です。

今年は60年に一度の丙午で、「火」の二つの重なりから縁起の良い年とされています。今年の干支を象徴するかのように、高い火柱が上がると、竹が「パン！パン！」と弾ける音が鳴り響きました。きっと、災難が追い払われたことでしょう。残り火で子供たちは、鏡餅やを焼いて食べました。

今回の開催にあたり、地域の方々をはじめどんどや委員の皆様方、本当にありがとうございました。子供たちはさっそくいい思い出を作ったようでした。

残り火で餅を焼く子供たち